であり、「待つ人」として

てきました。その中にも 会の宝が次第に豊かに見え 体験を重ねるにつれて、教 いを重ねてきました。この

「福音による集い」である

11月26日

した。

の歩みであったことがわか

の後、2000年の教会の 共同体が生まれました。そ

歩みは常に「改革の歴史」

そして、愛される

にめに生まれてき

当教、 力タクジア総裁 (現在)期目)

教皇厅開発援助促進評議会委員、

司教協議会HIV・AIDSデスク担当司

司教協議会東日本大震災復興支援室担

(新潟教区)、カリタスジャパン責任司教、

んのです

実ります。

長を経て2004年9月20日

司教叙階

ナで司牧、カトリック神言修道会日本管区

西アフリカ・ガ

(神三修英章)

わたしたちは愛す

黙するのを待つと、 変を種まきして、

-和という果実が

マザー・テレサの言葉

Ą

1986年3

三 祭 叙 階

岩手県宮古市生ま

歴

松墩区報

18年1月1日(第182号) F所 カトリック高松司教区 広報委員会 〒760-0074 高松市桜町1-8-9 087-831-6659 FAX 087-833-1484

: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp

お祈り申し上

してすべての人々の平安を 心から「世界平和の日」と

教区: catholic-takamatsu@takamatsu.cath 広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp 生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

スト者には

私たちキリ

ンスが流れています。待つ

の生涯をも思い浮かべます としての「神の母聖マリア」

生きる人々の集いの場、喜

待つ人」という信仰のセ

とは私たちの信仰の本質の

聖霊の注ぎにおいて信仰

音マーケット」の分かち合

各地区・ブロックにて「福

てきました。

昨年、私たち高松教区は

いとの思いが浮かび上がっ びを分かち合う場でありた



+SANCTE+SPIRIT

新年の祝いとともに、

であったと思います。 年の初めにあたり待つ人

神の

ブハウスではなく、地域に 教会は信者のためのクラ

主の豊かな祝福をお祈り申

高松教区 司教



約束は必ず実現すると、灯 画に心を開き信頼のうちに かかげ指し示す「希望のう ちに待つ人」、今というこ 積極的に待つ人」 この社会の中で、神の計

ります。

きました。

ことが「宝」として見えて

ました。

いの一年、

ト」の第2分テップとして、

生きることの難しい社会の

中で、教会が老いも若きも

の時を奉仕者として大切に

「根気強く待つ人」

かになってきました。 のようでしたが、分かち合 いの場」であることが明ら いを重ねるごとに、教会と メージは「コンビニ・店舗 当初「マーケット」のイ 人と人とが出会う「集

使徒ヨハネ

もに生きてまいりましょう。 ら、キリストの教会を「待 聖霊の助けをいただきなが 共に集う喜びの場となり、 つ人」としてマリア様とと 新年おめでとうございます 皆さま一人ひとりの上に

場としてのマーケットであ りたいとの思いが見えてき 課題を抱えた私たち現代人 **大切に思い、いたわりあう** 生きるためにたくさんの 互いに支え合い、人を

タルチシオ菊地功司教(元新潟教区司教) 岡田武夫大司教の引退願を受理し、 菊地大司教 東京教区に着座 12月16日午前11時から東京カテドラルで 教皇フランシスコは、東京教区のペトロ 愛媛地 愛媛地区八幡浜教会は、

とドミコ会マリアノ・ゴンザレス・ の共同司式による創立80周年記念ミ マルチン、ロザリオの聖母管区長と サ・堅信式を行いました。 (日)に使徒ヨハネ諏訪榮治郎教区長 と説明され、聖霊の働きを受ける恵 「油塗られた者・キリスト」と呼ぶ この中で、聖香油の意味に特に触

八幡浜教会 創 みの尊さをあらためて記憶すること 立80周年祝う ができま

2500人が見守る中、

着座式が荘厳に執

区各教会

の参加者

を東京大司教に任命した。

トのミサの中で厳粛に行われ、2名 松教区と八幡浜の歴史を記述した80 の中高校生が堅信の恵みに与りまし 実行委員会は、500年を遡る高

当日、諏訪司教様目ら、堅信準備護 の2名のカテキスタにより準備され あったため、堅信は、管区長から許 査、墓地調査等を準備しました。 周年記念誌、 可されたカリキュラムを管区長指名 八幡浜教会は4月から司祭不在で 代父母、 両親に行いま



参列者全員で司教を囲み記念の集合写真

「聖香油」を塗られたものを 200人集い喜びの献堂式

た今治教会にて諏訪 可教司式の下、教区 月23日、竣工し ております。

建築関係の方々をはじめ、 200人が参列して感謝と の基本的なコンセプトを教 から8年となる歩みの中で、 喜びのうちに献堂式が執り 4代目聖堂の献堂式となり 耐震化された新聖堂建築 創立91年、初代聖堂献堂 方、各教会の皆様、 **| 累 シター** され、主の復活が告げられ 文字が添えられています。 面のステンドグラスが再生 字架には、 コー・17)と刻まれ、 玄関の壁面に掲げられた上 ての民の祈りの家」 1rar」(柱の聖母) (ルカ24・13~35) など8 「エマオへの道での出現」 そして聖堂の左右には M a r i a たくわからない状態でし

行われました。

り」と「園児の安全を守る」 での建築を目指したことだ として、同じ場所に、別棟 十字架の下で、「現代社会 会と幼稚園が同じ幼稚園の に開かれた明るい教会づく 共に励んで参ります 主の家をいただき、改めて 会と共に歩む教会づくり い教会共同体を目指し、 わたしたちはこの新し

いたことに改め

深

今治教会・西条教会 宇和島教会・八幡浜教会

スの修復設置、 力を賜りました。 り、土地、建築資金 ご支援のもと、高い 整備、ステンドグラ をはじめ建築委員 教区が建築主体と への指導など、ご言 また、設備や備 とうございました。 の桜町教会の皆様に

の祈りと犠牲、ご奉仕 と多くの信徒の皆様 方面の方々のご協力 思います。 り、また時々感極まった りして時間の経過が ミサ中は終始緊張し たのが12時に近かっ 小生、恥ずかした

落ち着いており、その た。 成長を感じました。 に座っていた舞は しかしながら前 式のあとは修道 女会 大の産席

ともども大変感謝 の柔和な雰囲気の しております。 西村修道会長様、 舞を10年間育てて ターの皆様には家内共 また、シスター たち いた シス 馳



入れられ、ミサが終了し た。舞の終生誓願が受け 様司式、浜口司教様他10 での誓願式が始まりまし 名ほどでの共同司式ミサ 勢お越しいただきありが 路はるばる約50名来て頂 き、にぎやかで晴れ晴れ 10時30分、高見大 その中でも特に高松市 い誓願式となりました。 とお ながら たと 一 教 感謝

皆様に 長女が終生誓願式 の最中、式を終えての娘 たそうです。) たと感じました。 常に有意義な一日であっ が間違いではなかったこ 持ちもありましたが、式 まだ、親として複雑な気 とを改めて確信でき、非 様へ娘を送り出したこと の喜びあふれるすがすが 詩はパーティーの後あっ しい振舞いに、イエズス 終生誓願式の直前でも

和がありますように祈念 楽しみにしております。 し、また再会できる日を 最後に、皆様に主の平

がまっ

福山教会 尾島 巌 言われます。いて行きましょう」

年の門出にあたり、 や村へ行こう。そこでも、 は言っておられます。 様の上に主の豊かな祝 ある」(マル1・38)と主 全ての人に主のいのちを差 福をお祈り申し上げま めにわたしは出て来たので わたしは言教する。そのた)出すために。 「近くの町 出向いて行きましょう。 皆 新

高松教区辞令

榮治郎司教は、宇和島教会・八幡浜教会の担当司祭12月10日、カトリック高松教区、使徒ヨハネ諏訪 処するために、本年の復活祭までの暫定的措置とし 不在、また今治教会・西条教会の担当司祭不在に対 て担当司祭代行人事を左記の通り発表した。

シスター志願者として入門

して、早いもので約10年が

終生誓願式までの1年間を シスターたちによる、舞の

経ちました。

き聖母の騎士聖フ

ランシス けがれな

気持ちでいっぱいでした。

お祝いパーティーでは、

ろしくと心よりお願いする

今後の修道生活もよ

修道女会」に長

女の舞が

崎県小長井町の

にある長

担当司祭代行 ヨセフ・ゴ・ヴァン・タィン神父

当日は、幸いにも

天候に恵

内

との式のために北は

挨拶をしました。

生誓願式の日を迎る

えました。 (火)終

そして11月21日

上映、シスターたちの歌、

担当司祭代行 村上康助神父

12月18日着任

ではフィリピンより、 北海道、南は長崎県、海外

舞

や家内ゆかりの方々が遠

した。

社会と共に歩む教会目指す

ドミニコ修道会の

写真中央より左部分が教会、

の賜物と心から感謝いた

教会の門に「私の家は全

おいしい手作りの 主催のお祝いパーティ が開かれ、たくさんの 走も用意していただき、

は ばたき

ぎり、すべての信者はて神の愛に出会ったかた。「キリストにおい を読み、分ち合いまし 徒的勧告「福音の喜び」 上げます。 パープで、現教皇の昨年、私たちはよ 昨年、 初春のお慶びを申

舞の二胡の演奏、最後に家 振り返るパワーポイントの その中で舞からの小生と 族への思いを受け止めま 長男の穣への詩の朗読が あり、改めて舞からの家 舞、小生が皆様の前で (舞から家内への 信徒がみな宣教者となることを求めておられず、ます。「多くの人々が、ますった人がいます。外には大勢の飢えた人がいます。外には大勢の飢えた人がいます。 が食べ物を与えなさい』のです。『あなたがたたえず教えておられる てもいいと思います。宣教に関する書だと言っとあるように、全編が 宣教者です」 (120) と。 かれた教会」となり、教皇様は教会が「開 イエスは倦むことなく、 (マル6・37、49)

トを行い、社会に向け 高松教区は福音マーケッ するかのように、昨年、 「福音の喜び」に呼応 をもたらすために出向社会の中に福音の喜びわる中で宝をいただき、 ままでいい、人々と交は要りません。ありのは要りません。ありの あり方を探りました。ての新しい福音宣教のトを行い、社会に向け もやってみましょう。 司教様は「小さくて

◇高知地区◇

社会と共に歩む教会目指し

愛媛・高知で教区民の集い

の人と交わる喜びがある。

に来てもらい、

\Diamond 愛媛地区

教会の取り組みを発表する

れた。集いには諏訪司教を 地区教区民の集い」が11月 宣教のあり方などを話し合っ 告を聞き、話し合う「愛媛 む教会に向けて』の実践報 はじめ、県内から司祭、修 5日(日)道後教会で行わ 司教書簡「社会と共に歩 4人が出席。 新しい福音 シスター、 信徒ら1

リアーノ地区長の歓迎あい 全員が心一つに合唱して開 聖歌『あなたの息を』を 地元の中予地区モデラ ルの川上栄治神父、マ

さつの後、諏訪司教が講話。 代に生きる教会について語 司教書簡で述べられた現

ト化」を進めること、現代 来に向かって教会は「ユニッ 『一つの家族』であり、将 外国人を迎えて教会は

自分たちらしいやりかた"

で 信徒の福音宣教の実践報告

の『福音宣教―道後教会の あった。中でも城和雄さん

された。司祭の減少の中で、 いう実りを語った。 で導き、受洗者が増えたと が福音宣教委員会をつくり 多忙な司祭を補佐して信徒 チャレンジ』の発表が注目 者を講座に誘って受洗にま イリスト教入門講座を担当 日曜ミサに来訪した求道

方の実践発表だった。 残っている老人パワーを逆 会らしい」福音宣教のやり える高齢化した教会だが、 に活用して「自分たちの教 道後教会も平均70歳を越

ト』への課題など新しい福 か」を考える『福音マーケッ

音冒教の方向を示唆。きょ

の中に『どんな宝があるの

社会で教会

思いや共感 が司式する ど出席者の 実りに感謝 れ、当日の 席司祭たち 訪司教と出 た。 中で語られ が和やかな との交流な ミサが行わ 続いて諏

外国人信徒 祈った。

和やかに分かち合い

日曜はプラスの日

会へお誘いすることができ ・周りの人に声をかけ教会 御言葉にふ 出会いや感謝する面もたく と思いました。 づきにくくなっているのか。 頃のマイナス面のせいで気 さんありますが、それを日 結局、日常生活の中には

りの人に伝えれるか、 ているのか。これをどう周 れって言うものが思いつか みを、周りの人はどう感じ した。まだまだ難しくてこ **な課題など生まれた集いで** 日曜日に感じる神様の恵 新た

心にゆとり持って

て、または各

じました。

小教区として、

高知地区とし 内容を集約し、 が話し合った

の各グループ

全体会での発表に聞き入る参加者たち

福音マーケッ

トをどのよう

新居浜教会・小川礼治

分かち合うことで、困って いることとして「時間がな 福音マーケットを行ない、

合って行きた

いと考えてい

けるかを話し に展開して行

ました。9時半からのミサ

り引き続き、60名弱が7つ

あなたにとって、

合いのために、

ることに感謝

の生活の中で生かされてい

福、好によって、日々

する

教会に行く・祈りを大切に 信仰を大切にする・続けて

びをどこに見出しています

て、深い交わり出会いを喜

全神にのだねるとによっ

例えば教会に来てもらい知っ

らす。弱い立場。霊的な事が ・社会に向けた心の鐘をな (日) に、中島町教会で

高知地区では、10月15

しいひと時を過ごしました。

歌や踊りで楽

あの表情はマーケットだ。 のふるさと」と言い伝えた

ナの皆さんの

教区民の集い」が行われ

より、信仰の喜びの分かち

当日は、司教様の提案に

のグループに分かれて、テー

のではないか、ということ かと思うひとときで ぎが実感できるのではない 余裕を作り、平安とやすら にたどり着きました 教会・神様を通り

して心に

れていけたらと思いました。

仲間と会えた喜び

多かった心の悩み

今回は、福音マーケット

した。

(中島町教会・樽谷英賢)

(善通寺教会・山 本晴香

心の悩みが多く見受けられ 足腰等、身体的な悩みが ンの福音マーケッ また、教会の良さ さについ 、今回は トでは、

◆青年たちの福音マーケット 感想◆

多かったのですが、今回は

こうと思います。

青年たちとお会いすること

私は、初めて高松教区の

ができました。新しい若者

集いが「福音マーケット」 にかけ、 1月25日から26日(日) 教区主催・青年の

教会に向けて』県内七つの

続いて『社会と共に歩む

らは12グループに分かれて

さつがあり集いを終えた。 会の坂本喜久夫議長のあい

聞でも紹介された。午後か

このことはカトリック新

最後に地区宣教司牧評議

発表に対する感想など分か

「教区の取り組みの発表が

化の問題や われ、高齢 ち合いが行 てほしいと述べた。

っは課題を出して分から合っ

神父、Br八木等が加わり、 を共に分かち合いました。 そこから導き出された思 エクササイズを、2日目は が集まり、 開催されました。 をテーマに司教館において 日目は福音マーケットの 四国4県から7人の青年 諏訪司教、ソン

(新居浜教会・小川麗子)

分かち合いを行いました。 あるという意見がありまし びなどプラス面がたくさん 日曜日になるとゆとりや遊 イナス面から来る考えなど、 初めは、仕事や学校のマ 福音マーケットを用いて

イナス面が大きく出てくる 余裕とゆとりがなければマ い面)を持っており、心に

主の平和を、まず私達が実

教会の提供できる良さ、

感し、それを周りに伝えら

ます。

くださったらいいなと思い

極的に悩みを聞いて

を見かけたら積

なかったですが、分かち合

ササ

・一年間子どもが苦しんで

・祈りつつ、笑顔、思いや

・ミサと祈りを通して多く

できる。

接し、手助けをすることが

弱い立場の人にやさしく

食をはさみ、

つかご紹介します。

動や苦悩を感謝や許しへと ・人との交わりで受ける感

ることは喜びです。

レンジ・心の成長に向かえ

る。

・わたしにとって新しいチャ

みことばを伝えること。

その後、昼

各グループのまとめをいく

分かち合いの

た

いを行いまし

供できるでしょうか。につ とするなら、どのように提

いて話し合いを行いました。

Cグループ

ことができる。

神の価値観(愛)を伝える

秘跡を持つ友がいる共同体

Gグループ れてもらう。

信仰について話をし、

はすばらしい。

ケット」につ

仰の喜びを福音マーケット

(質問2)あなたの信

ぶことができる。

·奉仕活動、

相談相手等で

・同じ信仰、祈り、

る「福美ー

いて分かち合

まとめを発表 各グループが

した後、司教

良き交わりに喜びがある

福音マーケット」分かち合い

りを行動に移す信念を持ち、

社会に交わってゆく。

いただき終了

しました。ま

様から講評を

た、昼食後に

た姿を見たうれしさ 立ら直った時、教会で祈っ

・外国人の方が「教会は私

Dグループ

・感謝の気持ちを忘れない

は、フィリピー

いを行うことで大まかな 『形』が作れたのかなと感

多かったのに対し、 前回参加した西讚ブロッ

行ったということもあって ても、前回では坂出教会で 医療関係の情報の提

粿だと考えて乗り越えてい

など、多く出ました。教会 居心地の良さ、居場所、価

生じると感じますが、分か 面(弱い面)とプラ ち合いの中で人は、 が提供できるものとして という発表もありました。 「時間にゆとりができる」 この文章だけでは矛盾が イナナス

値を与えてくれるという意

ても嬉しく思っています。

(三本松教会・長町倫郎)

自分を深められた

たちとの繋がりができてと

ス面(強 も同じ年頃の方々が職場や 学校での居場所、自分の存 見が多いのが特色でした。 在意義や価値などの精神的 私はさておき、こんなに

な心の悩みを抱えているこ き込む青年たち とに驚きました。 教会に行って

和気あいあいの中で付き、う意見も出ましう意見も出ました。 そこで、 松太さんも教会で かって青年たち 職場や学校だと れるが、平日の してしまうとい また悩みが復活 心の平和が保た いる間だけは、 でしたが、1回目に比べい 意見や考えを深めれたら良 ろいろな意見も出せて、前 ことができたと思います。 回より自分の考えを深める いと思いました。 これからも3、4回目も 2回目の福音マーケット

教会の良さ見つめ

(徳島教会・嘉凜太郎)

と思う。日々自分が新たに さ」をそれぞれの付箋に書 されるように過ごしていこ て生きなおす機会になった 互に現れると気付いた。 と一瞬ごとにそれぞれが交 いたが、普段生活している な「教会の良さ」を見つめ は普段の生活では忘れがち くの悩みと「教会がもつ良 今回の福音マーケットで 日常生活の中で抱える多

さまざまな気づき

(徳島教会・白鳥夏菜子)

ついて分かち合いました。 から私たちに与えられた試 なれたらいいなと思います。 ある世界はあまり交わって 教会があることの良い点に で若者が困っていることと、 いないことに気づきました。 がある世界(社会)と教会が 私たちが、教会を知らな すると、困っていること また、困ったことは神様 人たちにとっての教会に こんなふうにしなければ、 んあるな、と思いました。 きていない幸福などたくさ 思ってるいろいろなことは、 た思います。自分や他人が ことによって、気づきがあっ ろなことを付箋に書き出す 出して思い返すことも大事 という思い、自分が実感で ここで、普段のいろい 時々そういうふうに書き

福音マ ツ <u>|</u> を考える 香川 徳島でも教区民の集い

奉仕出来る事を増やす。

◇西讃ブロック◇

まりました。 徒50余人が坂出教会に集 ブロック(池田、観音寺、 員会委員長 今年のテーマである 秋晴れの10月8日、西讚 西讚ブロック地区評議委 藤田芙美緒 招く様な事がしばしば起こ かい対応に感謝しつつも、 青年達からは、皆さんの暖 る事の悩みが発表され、ス 言葉による弊害から誤解を ペイン語のグループからも 同じ様な問題点の訴えも

かなど、本音で語り熱気 流れる色々な

意見が出て、 応として何が提供出来る また未来に対する願望な に分れ、夫々が教会や社 ヘトナム語の8グルー がでてきた。 それに対する教会の対

様の言葉が実感されました。 取り組まなければ将来の教 会は無くなる」と言う司教 との言葉の問題、若者世 塑意識も表出されました。 信者以外の人達も交えて、 が少ない等、 共通の問

をまとめました。 ーーズとそこへの対応など 以下、各組から出てきた

の中に信徒も入って交流を ・外国人との交流=外国人 ・家族への宣教―教会で行

諏訪司教の講話に耳を傾ける

高齢化―行政に頼らず

たと言う思いがあります。 それらを聴く事も良かっ スペイン語のグループと 発が違っていても、

高 ・法によるエクササイズ 署問題、外国籍の信徒 日本人のグループでは 福音マーケット」をK 日本人グループ6組 「何か始めねば」 事を継続していく事と同 時に司教書簡の「教会の 私達は現在出来ている

付箋への書き込みに取り組む参加者 が多い(智 茶話会老人 ミサの後の ニティー= しいコミュ む)。・楽 いる事も含 やナースが

たにしました。 なければ、と言う思いを新 う」の言葉に励まされ、何 か一つでも新しい事を始め さくてもやってみましょ 音マーケットになる、小 ーーズに向けて教会が福 動(お花、 国人対応=外国人との対話、 種コンサートの開催。・外 ・こころの安らぎ―花のあ 子供達への勉強。 ピアノ教室、書道教室、各 コーラス等) グループ活

関わりが今まで無かった事 仰と愛が清められ、 言うだけで一般の人は、 た教会作り―地域の人との れて行く。・社会に開かれ 出す)=その過程で真の信 ・生きて行く為にはたくさ に気付いた。 キリスト教と を振り落とす(神様に差し んのシガラミが有り、それ 深めら ボランティアで日本語指導 外国人の方のミサ参加(朗

職場での人間関係―イエス

トの事=信仰と科学の共存 ・環境問題―環境破壊の問 題を出す事が出来た。 仕と信仰)を付けた。 分類した。・教会が提供出 事柄が重なって出た。 来る事=2つの見出し(奉 くの見出しをつけて細かく ・社会のニーズ=様々な問 ||多

題に協力する。・AIやロボッ

んでいる人の為に話す。

様のたとえ話しを話す。・

ぱ)にしか解っていない。 来る事は大まか。 理解出来ているが、提供出

2 組

• 医療問題=

教会の近くに

大きな病院

心強い。 があるのが

にドクター (信者の中 万式で行った。

くの問題を抱えているので、 良い意味での関心、関わり 人間関係―人はみんな多

会としての関わり。 介護制度の制約の中で、

言葉の壁を越えられる様な 囲の方々に相談を持ちかけ、 集会や、勉強を企画する。 ・言語―多国籍の方々の、 決出来ない場合に、その周 社会経済活動=信徒で解

悪の領

スクール=

く=困っている人の手助け 堂で一緒に祈る(ロザリオ 出来ている事を継続して行 参加を呼びかける。・現在 通して、地域社会の人々の 開かれた教会―行事(クリ スマス会、バザーなど)を の祈り、聖体礼拝など)・ け、参加の声を掛ける。聖 ・信仰=教会で勉強会を設

今後の課題―若い世代が 傾聴する)。

為、教会に来られない方へ

復活祭など大きなミサの時 には、是非、教会に来て貰 の慰問。クリスマス、一音、

・まとめ=社会のニーズは 活動―少ないが出来る限 良く助けてくれる。

・介護=独居老人、病者の 教 り行われている。 ・祈願―少ないが出来る限 り行われている。

ていない様に感じられる。 く、熱心で、創造的で、協方や教会員達がとても気安 • 司牧―担当司祭やシスター を高める環境は、余り整っ 建物―近代的で立派な建 しかし、祈るために心

・職場=給与が少ない。 給制で収入が不安定。控除 れる問題(生活の現状) 犯が高く、

実質収入が低い。 周りの社会で見ら

ニケーションや、人間関係 るため)。日本語能力不足 の問題。仲介業者が絡む雇 りにくい(収入に影響があ や休憩のための時間が少な ・地域=寂しさや孤独を感 や習慣の違いによるコミュ (特に男性の場合)。 食事 事はきつい。汚い。危険 時給制のため休みが取

屋での居住人数が多いケ に伴う環境の悪化(湿気が 住居―建物施設の老朽化

◇東讚ブロック◇

教会に来ていない。病気の で開催しました。 ブロックの4教会から外 東讃ブロック教区民の集

国人、子どもを含め70数人 いは、10月29日に桜町教会

が参加し、午前中に福言マー

ベトナム人信徒からの見解 福音マーケット ケットの作業、午後はその ループ(4人と松浦神父、

力を合わせて付箋の仕訳をする参加者 た。 計りのグル

し、それぞれ 問の答えをK て、2つの質 J法で書き出 の答えを見て 業手順に従っ 分かち合い、 示された作

◇徳島地区 \Diamond しました。

開いた。テーマは福音マー 徳島地区が教区民の集いを ケットでした。 42人が参加 月9日に、鳴門教会で、 信者が集まって話し合いま 周りの人の悩みをリストアッ 阿南、それぞれの小教区で した。1回目は信者とその プしまし

解決につ 目は教会 2回 を組み合 ている宝 悩みの対 た。その の宝をリ プしまし 教が持つ 象として ストアッ

9月と10月に鳴門、徳島 度)に分かれた、 果を発表しました。 区の代表が小教区 た事を討議しました が4つのグループ 日の会ではそれぞれの小教 その後、参加した42人 発表され (10人程 の話の結 /。 12 時

は美味しかったけど 帰門の信者が作っ に食事をとりまし だ、お餅、とみかんでした。 13時から4つのグループ たお味噌 ど一番は た。弁当 した。信仰は神との対話。 しあって次の結論を出しま いて、4つのグループが話 教会が自分の居場所。御

教会の宝は 「洗礼」です

どの小教区でも次の サに入りました。 の発表がありまし ントがあって、14: は司教様の視点か では悩みはとい では教会が持っ した。家庭問 た。最後 題、人間 の枠に入 らのコメ ている宝 時からミ いますと のが大切。一人ひとりがで 会を通して喜びを得られる。 きる事がある。共同体は家 持っている宝は洗礼です。 ありました。皆さん、なに 教会に無償の愛がある。教 族。受け入れるのは教会。 言葉を日々の生活に生かす か忘れてませんか?教会が 最後に司教のコメントが

ながるで

しょうと

は大体次の枠、素質

晴らしい

もう一つは堅信です。つ

結果発表とミサを行いまし 福音マーケットの作業は、 分かちあった内容を

れば昼食 22時間

どまとめ

時間を

日本語大人グループが7つ (各7~8人) 、子どもグ とり、ゆっくりと分かち合 の1時間もあわせて と時間が足りなける

教会のすばらしさ発言

いを深めることがで また、開会にあたってブ うきまし

様から、

取り組みまし プ (3人と) プに分かれて ゼフ神父)の 外国語グルー ダーク人 の味、私達の信仰の 私達自身が気付かない私達 ロック長松浦神父様 気付くことの大切さ 分かち合いのヒント 分かりやすい説明があり、 御自身の体験を交えた

につい 自信に

ことについて「居場所がな 私や周りの人が困っ 向に歩むか見えていない」 「子供も忙しいです」、教 い」「現在の教会はどの方 各グループのまとめでは、 いに役立ちました。 っている トとして

ことですので、是非機会を

い分かち合いができるとの

滑な集いの運営に多大な協

マーケット小物準備等、円

最後に、会場準備や福音

作って違う顔ぶれで作業を

皆様に感謝申し上げます。 力をいただいた女性の会の

行い次のステップ2に繋げ

く、回を重ねる毎により深

回きりで終わるものではな

りの場、ボランティア活動、 とにかくそれをやってみる。 ていきたいと思います。 いな教会ではないけど、一 価値観にありました。大き 人材、交流の場、祈りと祈 入ひとりができる事がある。 福音マーケットをしたのか まり、教会が持っている宝 す。その後司教がなぜこの は秘跡 (sacraments) で

全ての小教区の発表を聞 その後アンケートを取りま けど、どのように信仰を生 活に生かすのか混乱してい した。信仰に関心があった 信仰関係行事がありました。 仰の年でした。いろいろな 遡って、2012年は信

ようです。 礼という答えは少なかった 所でやりましたが、宝が洗 を始めました。いろいろな ため、この福音マーケット そのギャップを解消する

ど)と私たちの信仰を、も のがはっきり見えてくるの て、私たちが提供できるも う一度見つめ直すことによっ 会が持っている宝(秘跡な 2018年には実際、教



司教座聖堂での各グループの発表

族や親戚の方々に

わたしたちは家

堂にいて、常に祈りを捧げ

なかった。

一つにどうしても手が出せ

が子孫に残せるのは、これ、

じたことは、「わたしたち

へたちとの出会いの中で感

人たち50~60名がいつも聖

ベトナム最後の日

古い教会で祈る婦人たちに感動 別れを告げ、ヨゼ

会に立ち寄った。 と思いきや、その 杯にこだましてい の婦人たちによる 前にヨゼフ神父が トを受け取り、そ のまま空港へ行く よく通った古い教 そこでもご高齢

ベトナムの教会においてそ

ここでも出された料理の

これまで訪ねたすべての

学んだ)、ベトナム語、日 医者仲間の男性一人加わり の勉強をされたと聞く。 奥さんは大分で短期間医学 鼓を打ちながら楽しいひと (金沢大学医学部で3年間 それに彼らの息子と同じ れも反省の一 ベトナムを後 父とお兄さん い、ヨゼフ神 イ空港へ向か 別なをは その後ハノ

ベトナムを訪ねる旅を終え帰路に就く筆者

父様は、両手をいっぱいに

ても、この態度を自然に表

した。その時のカンバラ神

フ神父のお兄さん に乗って再びハノ

たボテルでパスポー 先ず最初に宿泊し が運転するタクシー ハノイに入ると、 へ向けて出発し 辛位置、

夫婦は揃ってお医者さんで、 訪問先は、彼の友人宅でタ た。招待してくださったご 食『最後の晩餐』を共にし こにあると確信ができた。 ベトナム出発前の最後の

なかった。こ めたが、どう すことができ いと言って勧 味しい美味し しても手を出

打たれた。 父の信仰の原風景、信仰の 問ではあったが、ヨゼフ神 ている光景が目に留まり心 こうして短いベトナム訪 信仰の原点がと れてきた。 り盛られてテーブルに運ば キューにされ、お皿に山盛 が、そのままの姿でバーベ バリバリ音を立てながら美 雀位の大きさの小さな鳥 彼らは頭から噛みつき、

即ち『信仰』しかないとい

う熱くまた強い思いである。 ていたあの熱い思いを、 一度新たにされた巡礼、 かつて日本の教会が持っ ح \Rightarrow



拶とともに四国で歩んでい る教会に加わりたいと思っ 「はじめまして」という挨 はじめまして!

カンバラ神父様ありがとう

聖母幼稚園の子どもたち

らきらと輝いているように

なジェスチャーで、喜びい

"と言いながら、大き 私は、日本語がへたで

紹

様がまるで星のように、き

横で見ていた私は、

感じたのを覚えています。

神父様はいつも誰に対し

ちを導いてくださったよう

に、大阪教区の教会でも信

ぱいの神父様として、私た

聖堂訪問にやって来ま

パスクアル神父

味があり、自分の教区で7 と呼んでください。 神学生の時代から宣教に興

カマチョです。パスクアル チャプレンとして任命され 992年に叙階されました。 担当司祭と、聖母幼稚園の たパスクアル・サオリン・ 10月16日から丸亀教会の 1968年に生まれ、

ています。よろしくお願い たところです。 めに帰国していました。修 前から司牧の神学を学ぶた で働いていましたが、3年 **福言の喜びを伝えたいと思っ** 士を取得し日本に帰ってき これから皆さんと一緒に

1日 (月) 元旦 神の母聖マリア 祭

教区スケジュール

7日(日)主の公現祭 8日 (月) 主の洗礼 祝 成人の日

(日) 年間第2主日、 ~15日(月) 司祭・助祭の集いin塩江 18日(木)~日25(木)キリスト教祈祷一致週間

(土) 宣教司牧評議会役員会13:00

21日 (日) 年間第3主日

28日 (日) 年間第4主日 「世界こども助け合いの日(献金)」

2月

ていくとと。

日の始まりはミサから

福音の喜び伝えたい

ていますが、年度中なので

多分「お邪魔します」と言っ

た方がいいかもしれません

1年に来ました。

大阪教区の色々な小教区

つぱ

の教会

ヨゼフ神父のふるさとを訪ねて

慣を大事に守っていた。大

は終わるという伝統ある習 始まり、感謝の祈りで一日

教区事務局長 西川康廣一

1月

2日(金)主の奉献祝 3日(土)一粒会の集い (日)年間第5主日 5日(月)日本26聖人殉教者

(日) 年間第6主日 建国記念日

(水) 灰の水曜日 (大斎・小斎) 14日 18日 (日)四旬節第1主日

25日 (日) 四旬節第2主日

(水) 故溝部司教命日〈3年〉 (本来は閏年29日)

ベトナム巡礼と訪問の振 こうして私のベトナム訪 道後教会で版画展 トマス小崎しのび

で小崎少年も父とともに捕

で母への手紙を書いた。 小崎少年は役人の目を盗ん

岡本哲男神父(ドミ

11月6日、松山聖

人阪の町を引き回され、

厳

こまで参りました。 私と父 でハリツケされるためにこ

> 聖ドミニコ修道会入会 神戸生まれ。10

翌年の1月、24人は京都、

「ぱあでれと24名は長崎

シタン禁制が断行され、

神

広島の三原まで来たとき、

計

報

寮長就任。1977年、

松

ミニコ修道会聖トマス寮

山教会担当司祭。1987

に移り、余すところ2週 B年の待降節から降誕節 典礼暦A年が終わり、

間で年間になります。

秀吉の2度目のキリ

を強いられた。

かく元気、元気いっぱいの 教会である。信仰は、 確実に受け継がれている。
 駄に時間を過ごすことがな てくれたヨゼフ神父に改め ベトナムの教会は、とに ように、準備万端に整え ナム訪問にも拘らず、無 次から次の世代へと 子々 月あれ、2月4日(日) 日の日本26聖人殉教者の祝 来月、祝日に合わせ 道後教会では来年2月5

くときは、必ず民族衣装 ことを確認した。教会へ行 にちに確実に伝わっている (日曜日の服装) に盛装し かも信仰の喜びが子供 教会で開く。広島県三原市 殉教者のひとり聖トマス小 教した。伊勢出身。 紙の解説文などゆかりの資 作品十数点と小崎少年の手 の版画家・岡万梨彩さんの 崎少年をしのぶ版画展を同 から、4月22日(日)まで、 入として14歳で長崎で殉 聖トマス小崎は26聖人の

800キロの "死の行進" 寒の中を処刑地の長崎まで

924 7522) *\$7*° 日曜日午後1時まで。問い 合わせは道後教会(089 展示は4月29日までの毎

のこと御心配なさいません ように。ぱらいぞ(天国)

聖トマス大学にお

襟元から発見された。 で母上とすぐお会いできま にお願いします」(手紙の 部分)。この手紙は父の 母上のことを我らの主

年間働いたあと、スペイン 外国宣教会を通して200 語教育学習得。愛媛県松山 大学にて歴史教育学習得。 京都市立命館大学に リピン・ケソン市聖ドミニ 聖ドミニコ修道会神学講師 コ修道院にて司祭職叙階。 1 9 7 0 にて日本

信仰の血証人

聖・

修士取得。1968年、フィ ぶ。フィリピン・マニラ市 院において哲学を3年間学 956年、修道誓願宣立。 道会修道 933年 いて神学 955年 ヨセフ修 1989年、 **園理事就任。** 理事長就任。1997年、 主な書・児書 り病気療養。 006年、学校法人愛光学 神学生の指導に当たる。2 松山教会担当司祭 200 聖力タリナ大学非常勤講師。 愛光学園理事長就任、 ロザリオ学園 2011年よ

香港聖ドミニコ修

歩くドミニコ会量教師ファ 聖ドミニコ修道会ロザリ 才聖母管区400年史 ン・デ・ロス・アンヘレ

キリシタン時代の日本人

ス・ルエダ神父の伝記、

のです

その中で教会が持っている沢山の宝を自らの宝と問りの人々にも提供できる恵みと力をこれからきる恵みと力をこれから がな分かち合いから社会 のな分かち合いから社会 がな分かち合いから社会 見えてくるのでしょう。 と関わり合いが少しずつと教会のあるべき交わり 2017年は「福号ー



ドミコ会士

聖ドミニコ会の暦

本体価格 900円 (税込972円)

■烏賊墨の一筋垂れて冬の弥撒

書



み込むようにして、"いらっ

大きな声で

でもあったのではないでしょ

有難うございました。 もって教えて下さり本当に

したが、主の暖かさを身を

2年半という短い時間で

新

同時に、あの独特の日本語 祈られる神父さまです。

にこにこと迎えていました。

広げて、子どもたち皆を包

ろんご聖体の前で、長らく

師のようなあの仕草の裏側

に隠されていたのは、もち

るのではないでしょうか。

私もその一人です。手品

たくさん召し上がって、こ

刊

大好きなレンテハス豆を

れからもお体を大切に主の

ためにお働きくださいね。

された人は、大勢いらっしゃ

くことと信じています。 者さんたちの心を捕えてい

す方でした。この姿勢に癒

自作の俳句を織り交 ぜながら、誰にでも分 かるやさしい言葉で、 温かく、ときに厳しく、 福音を伝える前田万 葉大司教。本書は、散 逸していた1988年~20 09年の教会報を中心 にまとめた「五七五便 り」のほか、講演や対 談を収録。厳しい迫害、

偏見に遭う中、堅く 信仰を守り続けた長 崎・五島列島のキリシタンの末裔である大 司教が語る、貴重な一冊 です。

発行 かまくら春秋社 定価1800円+税

■教皇フランシスコ講話集4

介



2016年内の発言を集め た教皇フランシスコの講 話集 ワールドユ・ クラクフ大会閉会ミサ、 マザー・テレサ列聖式ミ サ、宗教改革500周年記 念合同祈祷会、いつくし みの特別聖年閉年ミサで の説教や、渡航中に亡く

なった難民犠牲者を追悼したレスボス島で のあいさつなどを収録。

著者: 教皇フランシスコ 判型A6 288P

神を観想し 二コ宣教修道女会 Ξ

私たちは、自分を創造しようとするこどもを まなび、護りましょう

> 星 学 菜 暁 0

鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園 阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園

